

木村 秀樹 個展
— 青磁・水鳥 —

会期:2024年5月8日(水) ~ 25日(土) ※日曜・月曜・祝日休廊
時間: 12:00 - 18:00
場所: imura art gallery



Celadon・Lake 翠い湖 100×143.5×109 cm Celadon Ceramic, Wood 2024

1970年代より現在に至るまで、現代版画における代表的な作家のひとりとして、また画家としても国内外で活動する木村秀樹。この度作家自身4年ぶりの個展を、イムラアートギャラリーにて開催いたします。

木村秀樹は、版画家として鮮烈なデビューを飾った後、主にシルクスクリーン技法で制作しながら、紙、ガラス、キャンバス、と多岐にわたる支持体を駆使し、絵画と版画の融合した作品も発表してきました。1980年代にはシルクスクリーンの技法を用いて、水鳥のイメージを描いた作品「水鳥のシリーズ」を制作しています。シリーズの制作休止から約40年の月日を経て、再び「水鳥のシリーズ」に取り組むとき、木村がメディアとして新たに選んだのは「焼き物」でした。

本展では、作品の中心に青磁の水鳥と波紋タイルを据えた、ミクストメディアによる立体作品《Celadon・Lake 翠い湖》、《Celadon・A Water Bird on the Pool》と、青磁の水鳥の写真画像を使用したシルクスクリーン版画作品など、新作9点を展覧いたします。今回の展示構成の主となる「青磁の水鳥と波紋タイル」は、成形に3Dソフトやプリンターを用い、また出力されたプラスチック製の水鳥／タイルを手作業で成形し、その後型取り、粘土を鑄込み、乾燥させ、素焼き、本焼きと、複雑な制作プロセスを経て、完成された作品です。かつて家業であった陶器屋、粟田焼への思いも寄せて制作された新作を、是非ご高覧ください。

—作家ステイトメント

主題「水鳥」について

それは何気なく組んだ腕の姿が、水鳥のように見える事を、偶然発見した所から始まりました。1980年代の初頭だったと思います。その後、友人たちをモデルにして、意図的に水鳥に見えるようポーズをとってもらい、画像を多々採集するうち、これを使って何か面白い事が出来るのではないかと思い始めました。

1983年～86年にかけて、この水鳥のイメージを使った作品が約30点余り存在しますが、一連の作品群を「水鳥のシリーズ」と呼んでいます。

腕と水鳥のダブルイメージは、両義性のイメージと読み替えることができますが、どっち付かずの、あいまいな、確定不能性のアナロジーとも言えます。この一種のつかみ難さを中核に据える事で起こるはずの、不完全感／未完性感／混乱／いらつき等々の中で行われる制作とは、意外と面白いのではないかと思いついたのです。

当初、「水鳥のシリーズ」の制作には写真製版のシルクスクリーン技術の使用を前提としていました。1970年代に試みた、Pencil や Blinder のシリーズを通して得た1つの結論がありました。それは、写真製版のシルクスクリーンを使って印刷されたイメージは、存在として両義的であるという事でした。原寸大に引き伸ばされたPencilのイメージは、虚と実の境界面に揺らぎつつ、物質でもなくイメージでもない、あるいはその両方でもあるような「両義性」を称えつつ存在し続けます。私は写真製版のシルクスクリーンが創り出す、この独特の存在感を「皮膜性」と呼び、その培養にそれ以降の制作の方向性を定めつつありました。

水鳥のシリーズの方法論的核は、「両義性＝水鳥」を「両義性＝シルクの皮膜性」で制作する事。つまり「両義性の二乗」の可能性です。数式に表すなら 両義性×両義性＝X となります。Xとは何か？ そもそもこの問いに答えを出す事は可能か？ もし可能なら、少なくとも、誰も見た事がないシーン／視覚を創り出せるはずでは？このような漠然とした期待がモチベーションでした。

一方、両義性＝曖昧さ／確定不能性です。曖昧さの二乗は更に大きな曖昧さとなり、途方もない混乱を生み出すだけではないのか？ あり得る予想です。

作品の制作とは建築に似ています。まず基礎となる土台があり、その上に骨組みが置かれ、さらに壁があり、内装外装が施され完成に至るのですが、一貫して求められるものは各プロセスの堅牢な安定性でしょう。しかし、仮に制作過程の一部に、両義性すなわち信頼性の欠如が挿入されていたら？ 少なくとも崩壊、瓦解、の危険性に怯え続ける存在である事から逃れられないでしょう。

「両義性の二乗」という方法論は、砂上の楼閣ならまだしも、せいぜい仮設の足場を設置するのが精一杯ではないのか？ もっともな疑問と言うべきでしょう。がしかし、逆に、私はそこに魅力を感じたのです。

完成されるべき構築物／作品が、期待されざる結果しか保証できないのなら、その制作過程には自由が生まれるからです。少なくとも素材の使用制限やスケールの制約からの解放は期待できますし、制作現場はおおなる実験場と化すはずです。この混乱に乗じて私が目論んでいたのは、作品形式の横断的展開でした。オーソドックスな版画の形式に止まるのではなく、絵画すなわち支持体のキャンバスへの移行や、イメージの立体化すなわちインスタレーションへの展開でした。

「水鳥のシリーズ」は、両義性のイメージ／確定不能性を制作の中核に据えることで生まれる、揺れの中で、思考の諸相を、メディア横断的に検証する事と言えるかもしれません。1983年頃にスタートしましたが、それは、1986年頃一旦休止という形で終わる事になりました。それから約40年の間隔をおいて、メディアを青磁の焼き物に置き換えて、この度の個展に結びついたという訳です。

ここで極私的な事情を書かせて頂きたいのですが、実は私の祖父は明治から大正にかけての時期、京都で粟田焼と呼ばれる陶器の製造に携わっていました。その息子、すなわち私の父は、粟田焼や清水焼の貿易に関わる仕事をしていました。つまり私は陶器屋の息子と言う事になります。美術大学に入学したものの、陶芸にはほとんど縁のない半生を過ごしてしまいましたが、ここに来て6歳で死別した父親を思い返す事も多くなり、一度くらい陶器屋の息子らしい作品を作ってみたいと思う様になりました。一連の作品のタイトルに Reunion・絆という言葉を使用した理由の1つには、家族の絆という意味を暗示したかったからです。そしてもう1つは、自身の制作史において、1986年の制作と2024年の制作の間に、絆を確認する事は出来るのか？ という興味がありました。

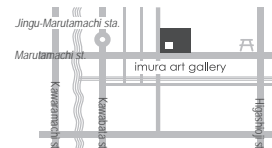
青磁の焼き物は、唯それだけで美しいです。この事に疑問の余地はありません。
ご高覧賜りますよう、お願い申し上げます。

木村 秀樹

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間 : 火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日 : 日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

■略歴

- 1948 京都市に生まれる
1974 京都市立芸術大学西洋画科専攻科修了
1988 MAXI GRAPHICA 設立
1988～89 文化庁派遣在外研修員として米国(ペンシルバニア大学美術学部大学院)に留学
1998～ 京都市立芸術大学 教授
2004 ispa JAPAN 2004 国際版画シンポジウム実行委員長
2008 大学版画学会 会長
2014 京都市立芸術大学名誉教授
2014 京都市文化功労者
2021 嵯峨美術大学 客員教授
2022 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ 実行委員長

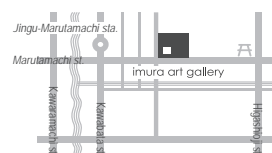
■画歴

- 1974 第9回東京国際版画ビエンナーレ 京都国立近代美術館賞受賞 国立近代美術館 (東京、京都)
1976 第5回英国国際版画ビエンナーレ 買上賞受賞 (ブラッドフォード イギリス)
1978 第7回クラコウ国際版画ビエンナーレ (クラコウ ポーランド)
1980 日本現代版画アメリカ展”21人の版画家展” クリーブランド美術館(クリーブランド、オハイオ、アメリカ)
1982 ビルバオ国際グラフィックアート展 第2席受賞 (ビルバオ スペイン)
1983 個展 今日作家シリーズ「木村秀樹近作展・・・水鳥は・・・」 大阪府立現代美術センター
1986 第9回英国国際版画ビエンナーレ 国立ウェストミンスター銀行賞受賞 (ブラッドフォード イギリス)
1987 第2回和歌山版画ビエンナーレ 大賞受賞 和歌山県立近代美術館 (和歌山)
1988 MAXI GRAPHICA 京都市美術館
1989 ユーロパリア ジャパン 現代日本美術展 ベルギー王国ナミュール市立文化センター
1992 公益信託タカシマヤ文化基金 新鋭作家奨励賞 受賞
1995 戦後文化の軌跡 目黒区美術館 (東京)
1999 個展 「半透明」 京都市美術館
現代版画・21人の方向 国立国際美術館 (大阪)
2000 写真と美術の対話 東京国立近代美術館フィルムセンター (東京)
2001 EXTENSION / MAXI GRAPHICA 京都市美術館
2002 現代・版 展 芸術の森美術館 (札幌)
2004 HANGA 東西交流の波 東京芸術大学大学美術館 (東京)
2006 表面の意志 京都市美術館
2008 MAXI GRAPHICA / Final Destinations 京都市美術館
2008 財団法人中信美術奨励基金 京都美術文化賞 受賞
2009 京都府文化賞 功労賞 受賞
2009 第21回京都美術文化賞 受賞記念展 京都文化博物館
2009 Reborn ノマルエディション改装記念展 ノマルエキジビットスペース (大阪)
2010 個展 イムラアートギャラリー (京都)
2011 個展 イムラアートギャラリー (東京)

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間 : 火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日 : 日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com

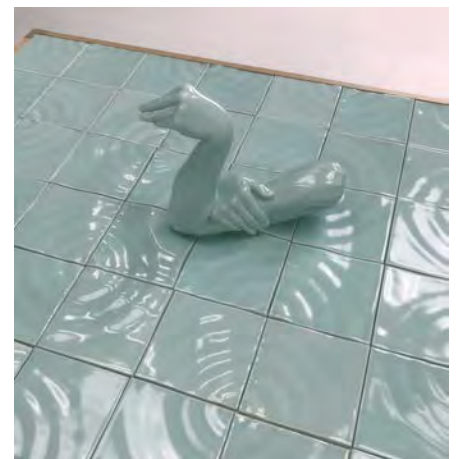


京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

- 2012 "Redefining the Multiple-13 Japanese Printmakers"
テネシー大学付属Ewing Gallery～全米各地を巡回
- 2013 犬と歩行視 京都市立芸術大学ギャラリー・アクア (京都)
阿波紙と版表現2013-和紙とテクノロジー 徳島阿波紙会館
「京の美・コレクションの美・明日への美」京都市美術館開館80周年記念展
- 2014 「版画系」文房堂ギャラリー (東京)
「1974 戦後日本美術の転換点」群馬県立近代美術館
京都市文化功労者 受賞
- 2014 個展 イムラ・アートギャラリー東京 (東京)
- 2015 「折り紙の宇宙-かたちのアヴァンギャルド」西脇市岡之山美術館
「LIFT; Contemporary Printmaking in the Third Dimension」Knoxville Museum of Art, USA
個展 アートゾーン神楽岡 (京都)
個展「半透明の皮膜による絵画」イムラアートギャラリー (京都)
「反撃! 抽象絵画」ART OSAKA ホテルグランヴィア大阪
個展 Project,"Periods 1,2" ギャラリーノマル (大阪)
「てぶくろ／ろくぶて」東京国立近代美術館
Japanese Contemporary Abstract Painting Sectorに展示 Art 高雄 (台湾)
- 2016 国際交流基金海外巡回展「映像と物質 版画の1970年代・日本」
個展「Misty」新苑藝術/Gallery Grand Siecle (台北)
3X4 Calculation of Image ギャラリーノマル (大阪)
個展 木村秀樹 Period 3: Fragments ギャラリーノマル (大阪)
個展 木村秀樹 Period 4: Chestnut Park/Pool ギャラリーノマル (大阪)
- 2017 Spring Collection 2017 ギャラリーノマル (大阪)
The viewport 特異な距離と平行線(堀尾貞治と2人展) イムラアートギャラリー (京都)
個展 木村秀樹 Period 5: Misty Dutch ギャラリーノマル (大阪)
- 2017 「LIGHT/MATTER, Art at the Intersection of Photography and Printmaking」
～18 Grunwald Gallery of Art, Indiana University USA
- 2020 「もうひとつの日本美術史-近現代版画の名作2020」福島県立美術館、和歌山県立近代美術館
- 2020 コレクションルーム春期・秋期 京都市美術館
- 2020 「京都の美術 250年の夢」京都市京セラ美術館
- 2020 個展「SkinUnit」ギャラリーノマル (大阪)
- 2021 「多摩美の版画、50年」多摩美術大学美術館 *Pencil 2 のシリーズ出品
- 2021 「フォトグラフィック・ディスタンス
-不鮮明画像と連続諧調にみる私と世界との距離-」栃木県立美術館
*From the Green Glass 7, 9, 出品
- 2021 「レトロなアバンギャルド-版画家たちの'70~'80年代-」ギャラリーヒルゲート (京都)
- 2022 「SoGraphics DX」@大分市美術館研修室 *'70年代からの代表作を展示
- 2022 「Group 81~94」ギャラリー揺 (京都)
- 2022 「Back to 1972 50年前の現代美術へ」西宮市大谷記念美術館
- 2023 「2023年コレクション展 虚実のあわい」兵庫県立美術館
- 2023 「印刷／版画／グラフィックデザインの断層1957-1979」国立工芸館、京都国立近代美術館
- 2024 「MIRROR/MIRROR 現代版画ドキュメント カナダ／日本」京都dddギャラリー

■主なパブリックコレクション

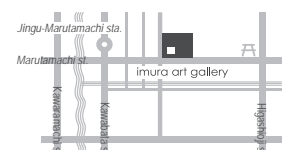
京都国立近代美術館（京都）
東京国立近代美術館（東京）
京都市美術館（京都）
京都市立芸術大学（京都）
和歌山県立近代美術館（和歌山）
徳島県立近代美術館（徳島）
兵庫県立近代美術館（神戸）
富山県立近代美術館（富山）
滋賀県立近代美術館（大津）
国立国際美術館（大阪）
町田市立国際版画美術館（町田 東京）
ブラッドフォード市立美術館、博物館（ウエストヨークシャー イギリス）
大英博物館（ロンドン イギリス）
フィラデルフィア美術館（フィラデルフィア アメリカ）
カルガリー大学附属ニッケル美術館(カルガリー カナダ)
國立台湾師範大学(台北 台湾)



imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間：火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日：日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax : 075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

Solo Exhibition Hideki KIMURA — Celadon • Water Bird —

Period: May 8 (Wed.) – May 25 (Sat.) , 2024

Hours: 12:00–18:00 (Closed Sundays, Mondays, public holidays)

Venue: imura art gallery



Celadon•Lake 100×143.5×109 cm Celadon Ceramic, Wood 2024

Hideki Kimura, a leading contemporary printmaker and a painter who has been active in Japan and overseas since the 1970s, will present his first solo exhibition in four years at imura art gallery.

Since making a spectacular debut as a print artist, Kimura has produced a stream of works fusing paintings and prints, using mainly the silkscreen method and various surfaces such as paper, glass, and canvas. In the 1980s he created the ‘Water Bird Series’ expressing images of water birds through silkscreen printing. Now, some 40 years later, the artist has returned to this series with a new choice of medium: ceramics.

The exhibition will feature nine new creations, including two three-dimensional mixed media works that surround a celadon water bird with ripple-pattern tiles—‘Celadon•Lake 翠い湖’ and ‘Celadon•A Water Bird on the Pool’—and silkscreen prints using photographic images of celadon water birds. The ‘Celadon Water Birds and Ripple-pattern Tiles’ pieces, the central elements of this showing, were crafted through complex process in which Kimura created plastic water birds and rippled tiles using a 3D software and printer, manually shaped them, made plaster molds of them, and then made clay castings that he dried, bisque fired, and glaze fired. Be sure to savor these new works that embody Kimura’s affection for the Awata ware ceramics business that used to be run by his family.

—Artist Statement

On the Theme 'Water Birds'

It started with a casual observation: the way my arms were positioned casually looked like a water bird. I believe it was in the early 1980s when I first noticed this. Subsequently, by having friends pose intentionally to resemble water birds and collecting numerous images, I began to consider the possibilities of creating something interesting with these observations.

From 1983 to 1986, I created about 30 pieces using this image of water birds, collectively referred to as the 'Water Bird Series.'

The double imagery of arms and water birds can be interpreted as an image of ambiguity, but also as an analogy of indecision, vagueness, and indeterminacy. The core of this work revolves around this elusive quality, potentially leading to feelings of incompleteness, unfinishedness, confusion, and frustration, which I found surprisingly interesting.

Initially, the creation of the 'Water Bird Series' was predicated on the use of photo stencil silkscreen techniques. Through the 'Pencil' (*1) and 'Blinder' (*2) series attempted in the 1970s, I concluded that images printed using photo stencil silkscreen possess an ambiguous existence. Enlarged to life-size, the 'pencil' image exists while fluctuating on the boundary between fiction and reality, neither material nor image, or perhaps both, celebrating its ambiguity. I called this unique presence 'membranousness' and have since been directing my creative efforts towards cultivating it.

The foundational concept behind the 'Water Bird Series' centers on crafting a dual sense of ambiguity, blending the equivocal nature of water birds with the 'membranousness' quality of silk, effectively doubling the ambiguity. This approach can be symbolically represented as 'ambiguity multiplied by ambiguity equals X'. The question arises: what does X represent? Can this question even be answered? And if it can, might it not give rise to a wholly unprecedented scene or vision? These indistinct expectations became my motivation.

On the other hand, ambiguity equates to vagueness and indeterminacy. Could the square of ambiguity only lead to greater ambiguity and unimaginable confusion? It's a conceivable expectation.

Creating artwork is similar to architecture. There's a foundation, upon which a framework is placed, then walls are added, and finally, the interior and exterior are completed. There is a demand at each stage of the process for robust stability. However, what if ambiguity, or a lack of reliability, was inserted into one part of the creation process? At the very least, there would be a constant fear of collapse and disintegration.

The methodology of 'ambiguity squared' might only be fine for the construction of a castle in the sand or, at best, setting up a temporary scaffold. A valid concern, indeed. Yet, I found this prospect intriguing.

If the to-be-completed construction or artwork can only guarantee unexpected results, then a freedom is born within the production process. At the very least, freedom from restrictions on materials and scale can be expected, and the creation site becomes a great experimental field. My intention amidst this chaos was a transversal development of the form of the work. Not stopping at the traditional form of printmaking but also transitioning to painting or canvases as supports and developing into three-dimensional images or installations.

The 'Water Bird Series' may be described as a cross-media examination of various aspects of thought in the midst of uncertainty, with ambiguous images and indeterminacy at its core. It started around 1983 but came to a temporary halt around 1986. After about a 40 year hiatus, I changed the medium to celadon ceramics, leading to this solo exhibition.

On a personal note, my grandfather was involved in the production of Awata ware ceramics in Kyoto during the Meiji and Taisho periods. His son, my father, worked in the trade of Awata ware and Kiyomizu ware. In essence, I am the son of a pottery family. Although I spent my life mostly disconnected from ceramics after entering art school, I've found myself reflecting more on my father, who I lost at the age of six, and have felt a growing desire to create something befitting the son of a pottery family. One reason for using the words 'Reunion' and 'Bond' in the title of the series was to imply the meaning of family bonds. Another was my curiosity about whether it's possible to find a connection between my work from 1986 and 2024.

Celadon ceramics are beautiful in their own right, unquestionably so. I warmly invite you to view the exhibition and appreciate your interest in experiencing it.

Hideki KIMURA

imura art gallery | Press Release

Footnotes

(*1) A series that began in 1974, consisting of works created by silkscreen print images of pencils photo stenciled onto pre-made graph paper. Catalogue raisonné numbers 18-42.

(*2) A series that began in 1978, consisting of images of glass surfaces silkscreen printed onto pre-made graph paper using photo stenciling. Catalogue raisonné numbers 78-108.

imura art gallery

〒606-8395

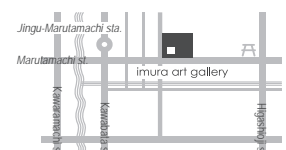
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31

開廊時間 : 火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00

休廊日 : 日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax : 075-761-7362

E-mail : info@imuraart.com



京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

■Biographical Information

- 1948 Born in Kyoto Japan.
1974 Completed Post Graduate Course of Kyoto City University of Arts.
Major in oil painting and printmaking / Photographic screen printing.
1988 Formed MAXI GRAPHICA.
1988-89 Studied at Graduate School of Fine Art ,University of Pennsylvania USA
under the scholarship of Japanese government.
1998~ Professor of Kyoto City University of Arts
2014 Professor Emeritus of Kyoto City University of Arts
2021~ Guest Professor of Saga Art University, Kyoto

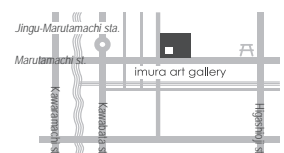
■Selected Exhibitions and Prizes

- 1974 " The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo"
Prize for National Museum of Modern Art Kyoto
National Museum of Modern Art , Tokyo/Kyoto
1976 "The 5th British International Print Biennale" Purchase Prize Bradford, England
"The 6th International Print Biennale" Krakow, Poland
1977 "1st Grand Prix Print Competetion Exhibition" Mastuya Department Store, Tokyo
1980 "The 8th Inter National Print Biennale Krakow" Poland Photography Association Prize
1982 Awarded 2nd Prize "International Exhibition of Graphic Art Bilbao Spain"
1983 Solo Exhibition, Contemporary Art Center, Osaka
1987 " The 2nd Biennale of Prints in Wakayama"
Awarded Grand Prix at Museum of Modern Art Wakayama
1988 "Maxi Graphica" Kyoto Municipsl Museum of Art, Kyoto
1992 Awarded Prize for New Artist by Takashimaya Culture Foundation
1999 Solo Exhibition, " Translucency " Kyoto Municipal Museum of Art.
2001 " EXTENSION/MAXI GRAPHICA" Kyoto Municipal Museum of Art.
2003 "The International Print & Drawing Exhibition, On the Occasion of 60th Anniversary
Celebration of Silpakorn University, Thailand" Purchase Prize
2004 "HANGA Waves of East-West Cultural Interchange "
The University Art Museum,Tokyo National University of Fine Arts and Music, Tokyo
Solo Exhibition, SPACE 11, Tokyo / Imura Art Gallery, Kyoto
2005 "Exhibition fo Contemporary Prints, JAPAN-Mexico in Guanajuato" University of Guanajuato, Mexico
2006 "Surface Intention" Kyoto Municipal Museum of Art
2007 Solo Exhibition, Imura Art Gallery, Kyoto
2008 "MAXI GAPHICA/Final Destinations" Kyoto Municipal Museum of Art
Awarded Kyoto Fine Art Culture prize by Chushin Fine Art Cultivation Foundation
2009 Awarded Testimonial Culture Prize by Kyoto Prefectural Government
2009 Memorial Solo Exhibition of Kyoto Fine Art Culture Prize, The Museum of Kyoto
2010 Solo Exhibition, Imura Art Gallery, Kyoto
2011 Solo Exhibition, Imura Art Gallery, Tokyo
2015 LIFT; Contemporary Printmaking in the Third Dimension Knoxville Museum of Art, USA

imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間 :火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日 :日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax :075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分

- 2015 Solo Exhibition, " Translucency / Skin ", Imura Art Gallery , Kyoto
Solo Exhibition, Project " Periods 1, 2 " , Gallery Nomart, Osaka
"Glove / Evolg" National Museum of Modern Art Tokyo
- 2017 "Light / Matter: Art at the Intersection of Photography and Printmaking 1954~2017"
Grunwald Gallery of Art, Indiana University, USA
- 2021 "Photographic Distance, Distance between World and Me measured by
Blurred Pictures and Continuous Gradation " Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts
- 2022 "Back to 1972"@Otani Memorial Art Museum Nishinomiya City
- 2023 "Between Fiction and Reality" Hyogo Prefectural Museum of Art

■ Selected Public Collections

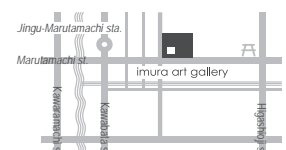
National Museum of Modern Art Kyoto, Tokyo.
The National Museum of Art Osaka.
Museum of Contemporary Art Tokyo.
Museum of Modern Art Wakayama, Tokushima, Hyogo, Tochigi, Toyama, Shiga, Kumamoto.
Machida City Museum of Graphic Art , Tokyo.
Municipal Museum of Art Kyoto, Oume Tokyo, Higashihiroshima , Kurobe.
Kyoto City University of Arts
Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Germany.
Cartwright Hall, Bradford City Galleries & Museums, West Yorkshire, England.
Victoria & Albert Museum, UK.
British Museum, UK.
Warsaw National Museum, Poland.
Philadelphia Museum of Art, USA.
The Nickle Arts Museum, Canada.
National Taiwan Normal University



imura art gallery

〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入東丸太町31
開廊時間 :火曜日～土曜日 / 12:00 - 18:00
休廊日 :日・月・祝祭日

Tel : 075-761-7372 / Fax :075-761-7362
E-mail : info@imuraart.com



京阪電車：「神宮丸太町」4番出口より徒歩3分
市バス：「丸太町京阪前」下車徒歩2分